第２　茨城県の交通事故

１　県内の交通事故発生状況

（１）概要

発生件数は平成12年をピークに平成13年から９年連続で減少し、負傷者数も大幅に減少した。死者数は199人で、前年より11人減少し、平成19年以来２年振りの100人台となった。

本県の死者数の全国順位はワースト第６位、人口10万人当たりの死者数は全国ワースト第３位と、依然として死亡事故多発県に位置している。

（２）第１当事者の年齢別発生状況（Ｐ29～38参照）

「20歳代」は、発生件数(3,805件、全事故の22.8%)、死亡事故件数(41件、全死亡事故の21.4%)ともに最も多い年齢層で、前年比では発生件数(-325件)、死亡事故件数(-9件)とも減少した。

「高齢者(65歳以上)」の発生件数は2,473件(全事故の14.8%)、死亡事故件数は36件(全死亡事故の18.8%)で、前年比では発生件数(+29件)、死亡事故件数(+2件)とも増加した。

（３）月別発生状況（Ｐ39～41参照）

「12月」(1,580件)が最も多く、次いで「1月」(1,486件)、「10月」(1,469件)の順となっている。前年比では「2月」(-328件)が大きく減少した。

死者数では「5月」(24人)が最も多く、次いで「10月」(19人)の順となっている。前年比では「6月」(+9人)、「7月」(+7人)が増加、「8月」(-13人)、「12月」(-10人)が大きく減少した。

（４）曜日別発生状況（Ｐ42～43参照）

「金曜日」(2,673件)が最も多く、「日曜日」(1,806件)が最も少ない。

前年比では「木曜日」(-344件)が大きく減少した。

死者数は「月曜日」(34人)、「金曜日」(33人)、「日曜日」(32人)が多く、前年比では「月曜日」(+5人)が増加、「火曜日」(-15人)が大きく減少した。

（５）時間別発生状況（Ｐ44～45参照）

「17～18時」(1,585件)が最も多く、次いで「8～9時」(1,474件)の順となっている。

前年比では「8～9時」(-232件)、「7～8時」(-227件)が大きく減少した。

死者数では「18～19時」及び「19～20時」(各16人)が最も多く、次いで「17～18時」(15人)の順となっている。前年比では「18～19時」(+9人)、「3～4時」(+8人)が大きく増加、「16～17時」(-10人)が大きく減少した。

（６）路線別発生状況（Ｐ46～54参照）

「市町村道」(6,964件、全事故の41.8%)が最も多く、次いで「国道」(4,745件)、「県道」(4,127件)の順に多い。

死者数では「市町村道」(68人、全死者の34.2%)が最も多く、次いで「県道」(65人)、

「国道」(59人)の順に多い。

(７) 道路形状別発生状況(Ｐ55～57参照)

発生件数は「直線」(6,862件、全事故の41.2%)が最も多く、次いで「交差点」(6,521件)の順に多い。前年比では「直線」(-1,146件)が大きく減少した。

死者数は「交差点」(76人、全死者の38.2%)が最も多く、次いで「直線」(71人)の順に多い。

(８) 第１当事者の車両別発生状況(Ｐ58～61参照)

「普通乗用自動車」が、発生件数(9,454件、全事故の56.7%)、死亡事故件数(81件、全死亡事故の42.2%)ともに最も多い。前年比では「普通乗用自動車」(-839件)が大きく減少した。

(９) 第１当事者の事故類型別発生状況(Ｐ62～67参照)

「追突」(6,494件、全事故の39.0%)が最も多く、次いで「出会い頭」(4,796件)の順で、この２つで全事故の約７割(67.7%)を占める。前年比では「追突」(-493件)、「出会い頭衝突」(-417件)が大きく減少した。

死者数では「歩行者横断中」(51人、全死者の25.6%)が最も多く、次いで「出会い頭」(37人)の順に多い。前年比では「歩行者横断中」(+7人)の増加が多く、「出会い頭衝突」(-8人)が大きく減少した。

(10) 第１当事者の原因別発生状況(Ｐ68～73参照)

「前方不注意」(5,469件、全事故の32.8%)が最も多く、次いで「安全不確認」、「動静不注視」、「運転操作不適」、「信号無視」の順に多い。

死亡事故件数では「前方不注意」(47件、全死亡事故の24.5%)が最も多く、次いで「最高速度」(23件)、「歩行者妨害」(17件)、「安全速度」(16件)の順に多い。前年比では「前方不注意」(+12件)の増加が多く、「安全速度」(-9件)、「右側通行」(-8件)が大きく減少した。

(11) 警察署別・市町村別発生状況(Ｐ74～99参照)

警察署別では「水戸署」(2,597件)が最も多く、次いで「土浦署」(1,414件)、「日立署」(1,099件)の順、死者数では「水戸署」(18人)が最も多く、次いで「土浦署」(17人)、「日立署」(13人)の順となっている。

市町村別では「水戸市」(2,281件)、次いで「つくば市」(1,316件)、「土浦市」(1,129件)の順、死者数では「水戸市」(14人)、次いで「ひたちなか市」、「日立市」(各13人)、「筑西市」(11人)の順に多い。

人口1,000人当たりの発生件数は、「水戸市」(8.60件)、「土浦市」(7.81件)、「那珂市」(7.31件)の順に多い。

(12) 年齢状態別死傷者数(Ｐ100～109参照)

状態別では負傷者数は「四輪車乗車中」(16,425人、全負傷者の75.9%)、死者数は「歩行中」(74人、全死者の37.2%)が最も多い。

年齢別死者数では「高齢者(65歳以上)」が90人で最も多く、その状態別は「歩行中

(46人、構成率51.1%)、「自転車乗用中」(18人)、「四輪車運転中」(15人)の順に多い。年齢別負傷者数では「30歳代」(4,208人)が最も多く、その状態別は「四輪車運転中」(3,079人)が約7割(73.2%)を占めた。

(13) シートベルト着用状況(P110～113参照)

四輪車乗車中の死者70人中、32人(構成率45.7%)がシートベルトを着用していなかった。このうち16人(構成率50.0%)は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があった。

負傷程度別のシートベルト着用者の構成率は、負傷なし(99.1%)、軽傷(95.1%)、重傷(83.1%)、死亡(54.3%)と、着用者構成率の低下に伴い負傷程度も重くなっている。

(14) 飲酒運転(原付以上、酒酔い運転を含む。)による交通事故(P115～117参照)

発生件数は206件(全事故の1.2%)、死亡事故件数は16件(全死亡事故の8.3%)、死者数は16人(全死者の8.0%)で、死者数の全国順位はワースト第３位である。

第１当事者の年齢層別死亡事故件数は、40歳以下の各年齢層で3件ずつ発生、内数では青少年(6件)が多く、全体の約４割(37.5%)を占めた。

(15) 無免許運転による交通事故(P118～119参照)

発生件数は141件(全事故の0.8%)、死亡事故件数は7件(全死亡事故の3.6%)で、前年比では発生件数(+24件)、死亡事故件数(+2件)とも増加した。

(16) 最高速度違反による交通事故(P120～121参照)

発生件数は43件(全事故の0.3%)で、全事故に占める割合は少ないが、死亡事故件数では23件(全死亡事故の12.0%)と死亡事故の大きな原因となっている。

(17) 子供(中学生以下)が関係した交通事故(P122～126参照)

発生件数は「幼・園児」254件、「小学生」577件、「中学生」452件で、前年比では「幼・園児」(-110件)、「小学生」(-89件)、「中学生」(-12件)とも減少した。

死者数は「幼・園児」が3人、「小学生」が4人、「中学生」が1人であった。

状態別死傷者数では「幼・園児」、「小学生」は四輪車同乗中(構成率:幼・園児81.3%、小学生50.5%)が多く、「中学生」は自転車運転中(構成率66.9%)が多い。原因別では、自転車乗用中が「安全不確認」(構成率29.3%)、歩行中が「飛び出し」(構成率38.1%)と多い。

(18) 高校生の交通事故(P127～129参照)

高校生が関係した事故件数は895件(全事故の5.4%)、死者数が4人(全死者の2.0%)で、前年比では発生件数(-117件)、死者数(-1人)とも減少した。

状態別死傷者数では、自転車運転中(構成率46.0%)、原付運転中(構成率22.4%)の順に多い。

死者数は、自動二輪運転中、原付運転中、原付同乗中、歩行中が各1人であった。

(19) 青少年(16～24歳)の交通事故(Ｐ130～133参照)

青少年が関係した事故件数は5,247件(全事故の31.5%)、死者数が22人(全死者の11.1%)で、前年比では発生件数(-579件)、死者数(-4人)とも減少した。

青少年は平成5年まで死者数の最も多い年齢層であったが、平成6年に高齢者と入れ替わり、その後大幅な減少傾向にある。

青少年運転者(原付以上)による事故件数は2,917件(全事故の17.5%)で、平成13年以降9年連続で減少した。

死亡事故件数は36件(全死亡事故の18.8%)で、前年比(+1件)は増加した。死亡事故の原因別では、最高速度(構成率30.6%)が多く、事故類型別では人対車両横断中(構成率30.6%)、正面衝突(構成率22.2%)が多い。

(20) 高齢者(65歳以上)の交通事故(Ｐ134～136参照)

高齢者が関係した事故件数は4,416件(前年比-32件)で、平成18年から4年連続で減少した。死者数は90人(全死者の45.2%)で、前年より増加(+1人)し、引き続き「死者数が最も多い年齢層」となっている。

状態別の死者数は、歩行中(46人、構成率51.1%)が最も多く、次いで自転車乗用中(18人)、四輪車乗車中(17人)の順に多い。

高齢運転者(原付以上)による事故は、発生件数(2,440件、前年比+59件)、死亡事故件数(35件、前年比+6件、全死亡事故の18.2%)とも前年より増加した。

(21) 男女別運転者による交通事故(Ｐ137～138参照)

発生件数は男性が約6割(構成率62.8%)、女性が約4割(構成率37.2%)を占めている。発生件数の前年比では、男性、女性ともに減少、死亡事故件数は男性の減少(-7件)に対し、女性は増加(+7件)した。

死亡事故のうち、事故を起こした年齢層別は、男性は「40歳代」、女性では「20歳代」が最も多く、事故類型別では、男性、女性とも「人対車両横断中」が最も多い。

(22) 初心運転者による交通事故(Ｐ139参照)

発生件数は805件(全事故の4.8%)、死亡事故件数は8件(全死亡事故の4.2%)で、前年比では発生件数(-103件)は減少、死亡事故件数(+1件)は増加した。

年齢層別の発生件数は「20歳未満」が559件(構成率69.4%)と最も多く、特に四輪車の18歳～19歳(構成率67.0%)、原付の16歳～17歳(構成率81.5%)が多い。

死亡事故件数では「20歳未満」が6件(構成率75.0%)であった。

(23) 県外者による交通事故(Ｐ140参照)

発生件数は1,878件(全事故の11.3%)、死亡事故件数は30件(全死亡事故の15.6%)で、前年比では発生件数(-207件)、死亡事故件数(-1件)とも減少した。

路線別では発生件数、死亡事故件数とも「国道」が最も多く、都道府県別では隣接する「千葉県」、「栃木県」、「埼玉県」の居住者が多い。

(24) 事業用自動車による交通事故(Ｐ141参照)

発生件数は682件(全事故の4.1%)、死亡事故件数は16件(全死亡事故の8.3%)で、前年比では発生件数(-190件)、死亡事故件数(-6件)とも減少した。

車種別では「貨物車」が最も多く、発生件数(552件、構成率80.9%)、死亡事故件数(16件、構成率100.0%)とも高率である。

路線別では「国道」(構成率48.1%)、「市町村道」(構成率24.3%)の順に多く、年齢層別では「50歳代」が最も多い。

(25) ダンプカーによる交通事故(P142参照)

発生件数は70件(全事故の0.4%)、死亡事故件数は3件(全死亡事故の1.6%)で、前年比では発生件数(-20件)は減少、死亡事故件数(+2件)は増加した。

事故類型別では「追突」(33件、構成率47.1%)が最も多く、次いで「出会い頭衝突」(14件)の順で、時間帯別では「9～10時」が最も多い。

(26) 二輪車の交通事故(P143～144参照)

二輪車が関係した事故件数は1,665件(全事故の10.0%)、死者数が24人(全死者の12.1%)で、発生件数(-201件)、死者数(-8人)とも減少した。

このうち原付の発生件数は1,055件(全事故の6.3%)、死者数は12人(全死者の6.0%)で、前年比では発生件数(-144件)、死者数(-6人)とも減少した。

二輪車の死者24人中、ヘルメット着用は22人(構成率91.7%)であった。

二輪車による事故件数は491件(全事故の2.9%)、死亡事故件数は17件(全死亡事故の8.9%)で、前年比では発生件数(-39件)、死亡事故件数(-8件)とも減少した。

事故を起こした年齢層別は「20歳未満」が約３割(30.8%)と最も多く、事故類型別では「出会い頭衝突」、原因別では「前方不注意」、「安全不確認」の順に多い。

(27) 自転車の交通事故(P145～147参照)

自転車が関係した事故件数は2,435件(全事故の14.6%)、死者数は31人(全死者の15.6%)で、前年比では発生件数(-230件)、死者数(-3人)とも減少した。

死傷者数の事故類型別は「出会い頭衝突」が約６割(59.8%)と多く、原因別では「安全不確認」が最も多い。

(28) 歩行者の交通事故(P148～150参照)

歩行者が関係した事故件数は1,239件(全事故の7.4%)、死者数は74人(全死者の37.2%)、前年比では発生件数(-150件)は減少、死者数(+7人)は増加した。

死傷者数の時間帯別では「16～20時」が約4割(37.8%)を占めており、年齢層別では「高齢者」(31.1%)、「中学生以下の子供」(16.5%)の順に多く、事故類型別では「道路横断中」、原因別では「走行車の直前後横断」、「飛び出し」が多い。

(29) 外国人の交通事故(P151～152参照)

外国人が関係した事故件数は389件(全事故の2.3%)、死者数が3人(全死者の1.5%)で、前年比では発生件数(-23件)、死者数(-1人)とも減少した。

外国人が関係した事故件数は、平成17年から５年連続で減少している。

外国人による事故件数は181件(全事故の1.1%)、死亡事故件数が2件(全死亡事故の1.0%)で、前年比では発生件数(-12件)、死亡事故件数(-3件)とも減少した。

国籍別発生件数では「朝鮮・韓国」が最も多く、次いで「中国」、「ブラジル」、「フィリピン」の順に多い。

(30) 踏切事故(Ｐ153参照)

踏切事故の発生はなかった。

(31) 物件事故(Ｐ154～155参照)

発生件数は67,853件で、前年比(+533件)は増加した